

## インターバンクの声（2014 年 12 月 30 日）

予想通りと言えればそれまでだが、クリスマス休暇明けのロンドン市場、そしてニューヨーク市場はともに薄商이었다ようだ。そうした状況下でも、ロンドン市場の終盤からニューヨーク市場の始まる時間帯では、ギリシャの次期大統領選出投票の不調を予め見込んでの、利益確定によるユーロ売りポジションの買戻しが進んだが、その後、年明けでのユーロ売り再開の見通しを先取りするような動きが見られた。ギリシャの3回目となる大統領選出のための議会投票でも決着がつかないのは想定済のはずで、昨夜のニューヨーク市場終盤に向けてのユーロ売りは、結局は欧州中央銀行（ECB）の景気刺激策の拡大が続くとの見通しが強いからに他ならないだろう。ユーロの下げ余力はまだまだありそうだが、2012年の夏に付けた1.20ドル台中盤のレベルがひとまずの目途となりそうなので、年内一気に1.20ドルの大台を割り込めるかどうかは微妙なところだ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。